

第54期 事業報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第2章第4条に掲げる事業を次のように行った。

平成25年度のオーケストラによる公演

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

1. 評議員、役員等及び事務局

評議員21名、理事18名、監事2名、事務局員14名（4頁参照）

2. 交響楽団の編成

音楽監督、首席客演指揮者 各1名、楽団員76名（平成26年3月末日現在）

ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー 計4名（5頁参照）

3. 音楽監督、首席客演指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

音楽監督 出演回数 39回、練習日数 25日

首席客演指揮者 出演回数 5回、練習日数 8日

交響楽団としての出演回数は合計121回、練習日数102日

この他小編成による教育や福祉関係の活動45回

なお交響楽団として移動日も含めての稼働日数は229日

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

1. 自主公演

【定期演奏会】

平成25年4月から平成26年3月までに1プログラムにつき2回ずつの公演を実施、計20公演実施した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。尾高が3回計6公演、エリシュカが2回4公演を指揮した。

【名曲シリーズ】

名曲シリーズは5月から平成26年2月までに5公演実施した。

【特別演奏会】

札幌市内で9公演、北海道内地方で5公演、道外では東京で1公演、計15公演実施した。

○札幌市内公演

- | | | |
|------|--------------------------|-------|
| 1. | アキラさんのモダンコンサート2013 | 4月29日 |
| 2. | 夏の特別演奏会「ザ・プリンシパルズ」 | 7月5日 |
| 3. 4 | 札幌ポップス・コンサート Vol.11（2公演） | 7月23日 |
| 5. 6 | アキラさんの大発見コンサート2013（2公演） | 8月10日 |

- | | |
|------------------|------------|
| 7. 8 札幌の第9 (2公演) | 12月14日、15日 |
| 9. 札幌シンフォニック・ブラス | 3月16日 |

○北海道内地方公演

札幌交響楽団は北海道内各地に優れた演奏を届けることが重大な使命であると考え、平成25年度は自主・依頼公演、音楽教室合わせ道内37公演を実施。

北海道内地方公演－自主公演分

1. 旭川市公演 4月26日
2. 砂川市公演 4月28日
3. むかわ町公演 1月19日
4. 小樽市公演 1月25日
5. 中標津町公演 3月22日

○東京公演 (ホクレン・クラシック・スペシャル2014) 3月5日

尾高の指揮で「シベリウス交響曲シリーズ」の第2弾として組曲「恋人」、交響曲第2番と第4番を演奏、好評を博した。

2. 依頼公演

各種団体、企業、自治体などが主催する演奏会に依頼に応じて出演。(計52回)

- 札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・26回
- 北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・24回
- 北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・2回

北海道新聞社、北海道電力、札幌市芸術文化財団(キタラ)、北海道公立学校教職員互助会、PMF、北海道銀行、北洋銀行をはじめ多くの企業、自治体の支援を受けて開催。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室を次のとおり開催。(計29回)

- 札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・11回
- 北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・8回
- 北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・10回

北海道外公演は、文化庁からの依頼により関東1都2県と山梨での公演を行った。

楽団員によるワークショップ(体験型音楽教室)では、小学生と音楽を通して交流を深め、鑑賞するだけでなく演奏に参加して得られる感動も広めることができた。(計22回)

- ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・18回
- 楽器講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・4回

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

1) 広報宣伝

○プログラムの発行

定期演奏会ははじめ自主公演では毎回、音楽評論家等による研究論文、楽曲解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布。

○ニュースレターの発行

札幌交響楽団の活動報告、公演案内など、最新情報を掲載したニュースレターを年に4回発行。

○ホームページによる広報

札幌交響楽団の最新情報を掲載し、チケット予約を受け付けるほか、定期会員・パトローネージュ会員の入会案内を行った。また、25年度よりフェイスブックも開設した。

2) その他の公演事業

○アンサンブル（12回）

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏することによって、クラシック音楽に接する機会が少ない方にも札幌の存在をアピールした。

○慰問演奏（11回）

特別支援学校、老人ホーム、障害者施設などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることのできない方々に音楽鑑賞の機会を提供、社会貢献活動を行なった。

3) 記録の整理と活用

○記録録音

札幌の演奏録音、録画を整理、永久保存を継続して行った。

○記録資料

資料文書を整理、演奏記録のデータベース化を図っている。

4) 周年事業のための調査、視察

55周年、60周年を見据えて、長期的に札幌交響楽団の発展を図り、国内だけでなく、海外でも演奏を披露することを検討。台湾公演の可能性を探るため、調査を行った。

5) 「シベリウス交響曲全集」の演奏CD化

平成24年度から3年間かけて北欧の大作曲家シベリウスの7曲の交響曲を「定期演奏会」で演奏、録音し、CD4枚からなる「シベリウス交響曲全集」を制作する。25年度はその第2弾として「第2番」と「第4番」等を演奏、録音した。

公益財団法人札幌交響楽団 評議員、役員等及び事務局

評議員	阿部 博光	理事長	村田 正敏	事務局		
	安斎 勲			事務局長	宮澤 敏夫	
	井田 重芳	副理事長	藤田 久雄	事務局次長		
	宇佐美 暢子			市川 雅敏		
	長内 勲	専務理事	小沢 正晴	総務部	庄司 寿子	部長
	金山 正彦				奥山 大介	
	川野 芳水	理事	伊藤 義郎		中川 広一	
	篠田 江里子		荻谷 忠男		小林 宏次	
	杉本 雅章		金井 昭雄		櫻田 千恵	
	高橋 教一		可児 敏章	事業部	吉野 早苗	
	武市 憲一		加森 公人		宮下 良介	部長
	長沼 修		酒元 辰也			
	則竹 正人		島田 洋一			
	橋本 道政		須賀 信昭			
	原田 幸一郎		田中 良治(正巳)			
	弘中 孝		似鳥 昭雄			
	藤田 道子		東原 俊郎			
	三部 安紀子		藤田 恒郎			
	三輪 宣彦		前泉 洋三			
	山田 享		横内 龍三			
	和田 敬友		渡辺 卓			
				事務局員14名		

評議員21名

理事18名

評議員21名

理事18名

監事
萬田 直紀
村上 康二

監事2名

(平成26年3月31日現在)

札幌交響楽団

音楽監督

尾高 忠明

首席客演指揮者

ラドミル・エリシュカ

コンサートマスター	伊藤 亮太郎	特別契約
	大平 まゆみ	特別契約
ヴァイオリン	石原 ゆかり	
	市川 ウィンチェンツォ	
	稲場(岡部) 亜希子	
	井上 澄子	
	大西(佐藤) 郁子	
	大森 潤子	首席・特別契約
	織田 美貴子	
	河邊 俊和	
	小林 美和子	副首席
	多賀 万純	
	竹中 遥加	
	土井 奏	インスペクター
	富田 麻衣子	
	豊村(多川) 智子	
	中村 菜見子	
	橋本 幸子	
	福井 岳雄	
	三原 豊彦	
	山下 暁子	
	横井 慎吾	
ヴィオラ	青木 晃一	副首席
	荒木 聖子	
	遠藤 幸男	
	仁木 彩子	
	橋本 純一郎	
	廣狩 亮	首席・特別契約
	水戸 英典	
	三原 愛彦	
	物部 憲一	

チェロ	荒木 均	
	石川 祐支	首席・特別契約
	伊藤(武田) 芽衣	副首席
	角野 友則	
	猿渡 輔	
	坪田 亮	
コントラバス	廣狩 理栄	
	文屋 治実	
	飯田 啓典	副首席
	稲橋 賢二	
	大澤 敬	
	斎藤 正樹	
フルート	助川 龍	首席
	信田 尚三	
	高橋 聖純	首席
	森 圭吾	副首席
	山崎 衆	
オーボエ	岩崎 弘昌	首席
	金子 亜未	首席
	宮城 完爾	
クラリネット	白子 正樹	副首席
	多賀 登	インスペクター
	三瓶 佳紀	首席
ファゴット	坂口 聡	首席
	夏山 朋子	
	村上 敦	副首席
ホルン	岩佐 朋彦	副首席
	折笠 和樹	
	菅野 猛	
	島方 晴康	
	橋本 敦	首席
	山田 圭祐	試用期間奏者

トランペット	佐藤 誠	
	福田 善亮	首席
	前川 和弘	
	松田 次史	副首席
トロンボーン	田中 徹	
	中野 耕太郎	副首席
	山下 友輔	首席
バストロンボーン	野口 隆信	
チューバ	玉木 亮一	
ティンパニ、打楽器	大垣内 英伸	
	大家 和樹	
	藤原 靖久	副首席
	武藤 厚志	首席

楽団員計76名

パーソネルマネージャー	高井 明
ステージマネージャー	田中 正樹
ステージスタッフ	松本 了英
ライブラリアン	中村 大志

スタッフ計4名

(平成26年3月31日現在)

札幌交響楽団 平成25年度活動報告

平成26年5月9日作成

公益財団法人 札幌交響楽団

札幌市中央区中島公園1-15

札幌コンサートホール内

<http://www.sso.or.jp>

札幌交響楽団の活動

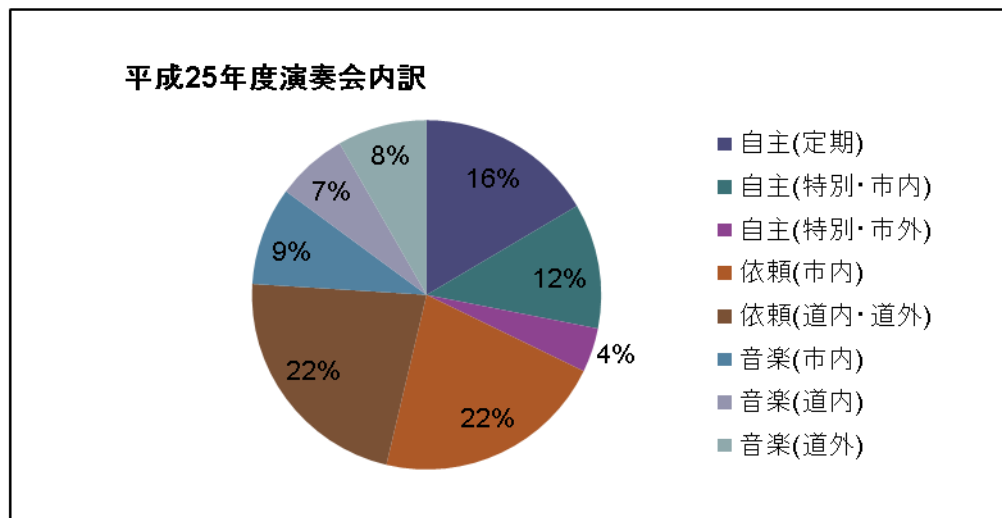
オーケストラ演奏会 計121公演

■ 自主公演(40公演)

定期演奏会(札幌市内)	20公演
札幌市内	14公演
北海道内	5公演
北海道外	1公演

■ 依頼公演(52公演)

■ 音楽教室(29公演)



教育・地域活動、アンサンブル演奏 計 45公演

総計166公演

自主公演 札幌が主催する演奏会です。

■ 定期演奏会 年10回 20公演

■ 札幌市内公演 年14公演

札幌名曲シリーズ

アキラさん(宮川彬良)のコンサート

(モダンコンサート、大発見コンサート)

札幌シンフォニック・ブラス10th anniversary

札幌ポップスコンサートvol.11

札幌夏の特別演奏会「ザ・プリンシパルズ」

札幌の第9



札幌の首席奏者たち4名の独奏と、「ボレロ」で構成した「夏の特別演奏会」は、札幌の可能性を感じていただく企画として、好評価をいただきました。

■ 北海道内公演 年5公演

旭川公演、砂川公演

(アキラさんのモダンコンサート道内公演)

中標津町公演

札幌ニューイヤーコンサートin小樽

萬田記念財団共催 むかわ公演

札幌で好評の「アキラさんのコンサート」の道内ツアーを企画し、旭川、砂川で主催事業として開催しました。また、新たに萬田記念財団の支援をいただき、むかわ町で主催演奏会を開催しました。



■ 北海道外公演 年1公演

東京公演2014

依頼公演

企業、自治体などの依頼
で演奏会を提供しました。

■ 札幌市内公演

全26公演

Kitara主催(3公演)

PMF主催(2公演)

その他団体企業主催公演(21公演)

札幌、道銀、北洋、道新、北電、HBA、
さっしん、999人の第九、JAF、
さぽーとさっぽろ、民音、きのとや、
HTB、HBC、NHK、ほくやく など



映像と音楽をあわせて好評の「札幌スクリーン・ミュージック」(道新文化事業社主催)など新しい試みの演奏会や、周年事業としてほくやく、きのとやからご依頼をいただきました。

■ 道内各地の公演

全24公演

北海道新聞社との共催(道内14公演)

紋別、千歳、岩見沢、稚内、富良野
恵庭、釧路、美深、北広島、江別、函館、
栗山、帯広、北見

ほくでんファミリーコンサート(道内4公演)

北海道公立学校教職員互助会コンサート
(福島、神恵内=札幌初訪問地)

NHK「北の音楽隊」(芦別)

北洋銀行コンサート(室蘭)

クロネコファミリーコンサート(函館)

ホクレングリーンコンサート(岩見沢) など



神恵内村で初の札幌演奏会を開催することができました。

■ 道外の公演

全2公演

新潟県 (新潟市、魚沼市)

音楽教室

青少年向けに音楽の楽しさを伝えました。

■ Kitaraファーストコンサート / 広域圏ジュニアクラシック

札幌市内の全小学6年生を対象としたKitaraファーストコンサート、全9公演で約16,000人が鑑賞。さらに、札幌市広域圏組合主催により近隣市町の小学生を対象としたコンサートも2公演開催。

■ ジュニアクラシック

旭川、登別、恵庭、苫小牧、小樽、音更で例年どおり北海道新聞社などの助成を受けて各地との連携により開催。また、札幌ボランティア”ピリッキー”との共催により七飯町で開催。

そのほか、Kitaraなどで高校生を対象とした鑑賞教室なども開催。



”ピリッキー”共催による七飯町でジュニアクラシックコンサートを開催しました。

■ 文化庁主催・次代を担う子どもの舞台芸術体験事業(巡回公演)

文化庁主催により千葉県、山梨県、茨城県、東京都の学校10校を訪問。



楽団メンバー数人が訪問する事前学習(ワークショップ)によってオーケストラに親しみを感じた児童・生徒が、本公演(オーケストラの演奏会)を積極的に鑑賞し、体験コーナーも活気にあふれました。



教育・地域活動、 アンサンブル演奏会



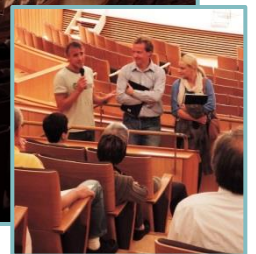
公立特別支援学校や各地の福祉施設での訪問演奏を年間11回実施、道内演奏会の機会に各地でも展開しました。



ドレミの箱音楽教室など、吹奏楽に親しむ中高生を中心に、楽器の指導を行うクリニックを引き続き道内各地で開催しました。



被災地への音楽を通じた支援活動として、閉校となってしまった学校(女川第2小学校)の校歌の収録し現地の学校関係者へ配布、また、石巻への訪問演奏などを実施しました。(日本オーケストラ連盟主催事業)



ブリテンの生誕100年記念の演奏会では、会員向けにレクチャー付きの練習見学会なども実施し、会員の興味の喚起と、理解の促進に努めました。

尾高、エリシュカ、 それぞれに新しい展開を目指して

● 北海道とアジアを結ぶ、音楽の翼

2012(平成24)年に始まった札幌市の姉妹都市 韓国・テジョン広域市のテジョン・フィルとの交流事業として、平成25年は、8月の定期演奏会に、テジョン・フィル芸術監督のグム・ノサンを招聘、両市の文化交流の促進に努めました。

北海道の文化の担い手として、本道への関心を高めるアジア各地と音楽を通じた交流を深めることも札幌交響楽団の重要な役割と考えています。

台湾の音楽祭からの招聘も受け、2015年3月に台湾演奏会ツアーを実施すべく、今年度はその準備を進めました。



演奏会の前に市長表敬訪問を行い、両市の音楽事情についてなど、情報交換を行いました。



● 尾高&札幌 3年計画の シベリウス全曲シリーズ

2015年シベリウス生誕150年へ向けたシベリウス交響曲全曲シリーズは、平成24年度末(2013年3月)にスタートしました。同年7月には第1弾のCD(交響曲第1番&第3番)をリリース、年度末の定期演奏会、東京公演での収録から、第2弾のCD(交響曲第2番ほか)は本年7月にリリースを予定しています。

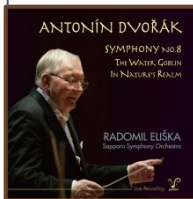
尾高忠明指揮 札幌交響楽団
「シベリウス交響曲シリーズvol.1
～交響曲第1番&第3番」

(助成:
公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション)



● エリシュカ&札幌 チェコ音楽からブラームスへ

エリシュカが首席客演指揮者に就任時に最初の目標としていたドヴォルジャークの交響曲第5番～第9番までの演奏とCD化が、4月の定期演奏会で完了となりました。秋からは新たにブラームスの交響曲全曲への取り組みも始まり、エリシュカ&札幌の新たな展開に全国に広がる多くのファンは注目しています。



R. エリシュカ指揮
札幌交響楽団
「ドヴォルジャーク交響曲第8番ほか」
※チェコ音楽ライブ収録シリーズを締めくくるCD

★ 新たな観客層へのアピール～情報発信の多角化～

創立50年を超え、定期会員や札幌ファンが世代交代の時期迎えていることも考慮し、新たな顧客層への積極的情報発信への取り組みを開始しました。具体的にはタクシー協会、ホテル協会との連携に取り組み始めたほか、2月には公式Facebookページでの情報発信を開始しました。